

# ＝ 運動負荷試験のための説明文書 ＝

## I. 検査の目的

運動負荷試験は、運動に対する心臓や血管の反応を評価する目的で行います。検査時には血圧計と心電図、呼気ガス分析器などを装着し、医師の立ち会いのもとに実施し、以下について検討します。

1. 胸の痛みや息切れ・動悸など運動時におこる症状の診断
2. 狭心症や不整脈の診断
3. 心疾患の治療効果の判定
4. 心臓や他臓器の手術の安全性や必要性の判定
5. 運動中の心臓の機能診断
6. 運動能力の判定
7. 運動処方作成

## II. 検査の機器

1. 自転車エルゴメータ：固定式自転車・・・徐々にペダルが重くなります
2. トレッドミル：自動式ベルトコンベア・・・3分毎または徐々にスピードと角度が増加します
3. 呼気ガス分析器・・・マスクを付けて酸素摂取量などを測定します

## III. 検査の方法

検査開始前の体調や心電図を確認後、負荷方法の説明を致します。検査当日の体調などから判断して、検査を延期または中止させていただく場合もあります。運動中には検査担当者が自覚症状や顔色などのチェックを行い、血圧は1分毎、心電図は連続して監視します。

### ◆運動を中止する基準

- ① 疲労、息切れ、胸部不快感などといった、試験を中止すべき症状が出た時
- ② 血圧や心電図などが試験中止の基準となった時
- ③ 予定した検査法が終了した時
- ④ 検査を受けている人が中止を希望した時

## IV. 起こりうる合併症

検査中には、心臓発作、失神、転倒、血圧異常、心電図異常、不整脈などが起こる可能性があります。運動負荷試験による致死的な合併症は、わが国においては1994年に下表のように報告されており、非常に少ない数ですが、ゼロではありません。

検査により血圧が低下したり、胸痛が持続したりする場合には、輸液（点滴）やニトログリセリン、アトロピンなど治療に必要な薬を使うことがあります。また、緊急事態が発性した場合、あらかじめ用意してあります緊急フローチャートに基づいた安全対策を行ないます。重大な合併症に対しは、近隣の急性期病院で治療することになります。これら緊急処置を行う場合には、できるだけ前もって説明をいたしますが、説明をしているだけの時間的余裕のないこともあります。その場合には、事後の説明とさせていただかざるを得ない場合もあります。

# わが国における運動負荷試験中の事故の実態

運動負荷試験数総数 1,584,261 件 (97 施設 平均 8.0 年)

死亡事故	6	除細動器使用	28	緊急入院	37
(発生率)	1/264,000	(発生率)	1/57,000	(発生率)	1/43,000

(日本心電学会運動負荷心電図の標準化に関する小委員会 1994 年報告)

## V. 説明内容の理解と自由意志による同意承諾およびその取り消しについて

今回の説明でよくわからなかった点や疑問な点がある場合には、いつでも遠慮な  
さらずに担当者に再度の説明をお申し付けください。

運動負荷試験の必要性および付随する危険性や起こりうる合併症に関して、十分  
理解された上で、患者さん自身の自由意志により、検査を受けるか受けないかを決  
定することができます。検査を受けないことにより、診断に必要なデータが得られ  
ないこと以外の不利益を被ることはなく、また一度承諾した後でも、いつでも承諾  
の取り消しをすることができます。

## 同意書

櫻坂上医科歯科クリニック殿

この度、運動負荷試験を行うにあたり、その内容・意義・起こ  
りうる合併症などについて、担当医師より充分説明を受け了解しま  
したので、その実施をお願いいたします。

説明医師

年 月 日

ID

患者氏名

年 月 日

代諾者氏名

年 月 日

(患者が 18 歳未満の場合など)

<検査に際してお願い>

- ① 検査の 2 時間以上前に食事をお摂りください。
- ② 極端な空腹時や満腹時の検査は好ましくありません。
- ③ 検査前 2 時間は喫煙や激しい運動を控えてください。
- ④ 当日は**運動のしやすい服・運動靴・タオル**をご持参ください。
- ⑤ 当日は 15 分前までにご来院ください。